

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和6年 12月3日（火曜日）第5時間目

場所 4年1組 指導者 稲留 愛

1. 単元名 やさしいまち、田隈

2. 単元目標

- 自分たちの周りには、様々な困難を抱えている人がいることに気付き、安心して暮らせるようにするために、様々な取組が行われていることや人の働きがあることを知る。
(知識・技能)
- 福祉体験などを通して、感じたことや収集した情報を基に自分たちに何ができるのか考え、言葉や資料を用いて相手意識をもって発信・表現することができる。
(思考・判断・表現)
- 課題解決に向けて、仲間と協力して活動を進めたり、自分とは異なる意見や考え方を受け入れたりして改善に生かすことができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、「パラスポーツ競技や車椅子の体験活動」、「高齢者や障がいのある方との交流」を教材として取り上げる。福祉体験を行うことで、自分たちの想像以上の苦労があることを気付くとともに、誰でも安心して楽しく過ごすことができるユニバーサルデザインの概念のよさに気付くことが期待できる。また、高齢者や障がいのある方の話を聞き、ふれあうことで、日常生活の困り感や思い・願いを理解し、当事者意識をもつことで、やさしいまちづくりの推進は、切実な課題として捉えることが期待できる。

これらの活動を通して、様々な状況や立場にある周りの人々の存在に気付き、相手の気持ちを想像し、自分たちには何ができるかを協働して考え、実践する力を高めていくことに繋がっていくと考える。

(2) 児童観

本学級の児童は、3年時で「われら田隈探検隊」「ふれあおう地域の人と」をテーマに設定し、田隈校区の魅力や地域の社会教育を推進する拠点施設として、中心的な役割を担っている人権まちづくり館・公民館について、見学や講和などの様々な体験を通して学び、その魅力を伝える活動に取り組んできた。これらの経験から、児童のほとんどが自分たちの住む地域について関心が高く、これからも田隈のまちを守り、大切にしていこうとする姿が見られる。しかし、地域のために、自分たちにできることをしてみたいという思いをもっているが、実際に自分たちに何ができるのか、どのように地域づくりに参画すればいいのかを考えて行動しようとする力はまだ十分に身につけていない。

また、自分たちの地域には、様々な困難を抱えて暮らしている人がいることやその困

難さについて考えたり、身をもって実感したりする経験は少ない。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、パリオリンピックについて振り返りながら、パラリンピックダイジェスト動画を視聴し、パラスポーツに関心をもつことができるようにする。実際に、パラスポーツ競技「ボッチャ」、「ラダーゲッター」、「カーリンコン」を楽しみ、ルールのおもしろみやパラリンピックの意義を考えることで、誰でも楽しく競技に参加することができるユニバーサルデザインのよさに気付かせる。

次に、自分たちのまち田隈においても、全ての人にとってやさしいまちなのか、地域の環境についてユニバーサルデザインの視点をもって考えていく。身の回りに住んでいる人を思い返したり、校区の人口推移を表すデータを参考にしたりしながら、どのような人が暮らしているのか、校区内にユニバーサルデザインはあるのかを調べ、まちの現状をつかみながら課題を見出していく。

調べ学習では、ユマニチュード（認知症キッズサポーター）や車椅子体験、視覚障がいの方との交流活動を設定する。これらの疑似体験や関わりを通して、生活への困難さを実感したり、当事者の苦労や思い・願いに触れたりすることで、課題を自分事として受け止められるようにする。そして、様々な状況や立場にある方にとって、よりやさしいまちにしていくために、自分たちには何ができるかを協働して考えていく。

深める・広げる活動では、考えたことや行動したことを目的に応じてまとめ、発信することができるように、表現方法を選択させたり、地域の社会福祉協議会の方々に助言をもらったりしながら、児童の考えを尊重しながら学習活動を進めていく。

(4) ESDとの関連

○ 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- ・ 多様性…自分の身の回りには、様々な人が暮らしているということ。
- ・ 相互性…思いや願いによって、暮らしを支え合って生活しているということ。
- ・ 公平性…みんなが楽しく快適に暮らすためのものやおもしろさを工夫することが、みんなにやさしいまちをつくっていくということ。
- ・ 責任性…自分の行動が、みんなにやさしいまちづくりに繋がることを理解して、自分にできることを考え、取り組むことができる。

○ 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

- ・ 未来を予測して計画を立てる力…みんなにやさしいまち田隈の姿を想像し、何をすることが大切か考える。
- ・ コミュニケーションを行う力…体験活動や友達との交流を通して、他者の考えを受け入れたり、自分の考えを分かりやすく伝えたりすることができる。
- ・ 進んで参加する態度…ユニバーサルデザインの視点を持ち、校区の実態を把握したり、自分たちにできることを考えたりする。

○ 主に育てたい ESD の価値観

- ・ 公平性…すべての人にとって住みよいまちであるために、何が大切なのか考えることができる。

○ 達成が期待される SDGs

- ・ 3 (すべての人に健康と福祉を)、11 (住み続けられるまちづくりを)

4. 単元の評価規準

知識及び技能	<p>① パラスポーツの意義やユニバーサルデザインについて理解することができる。</p> <p>② 社会には多様な人々が生活していることや互いに支え合って生活していることに気付き、その価値や意味を理解することができる。</p>
思考力、判断力、表現力等	<p>① 高齢者や障がいのある方の普段の生活や思い・願いについて、インタビューしたり、話し合ったりする活動を通して、課題を設定し、解決に向けて自分たちにできることを考えることができる。</p> <p>② 課題の解決のために必要な情報を調査する対象に応じた方法や内容を選択し収集している。</p> <p>③ 情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり、関連付けながら地域の人と協働して課題の解決について考えている。</p> <p>④ 課題の解決に向けた過程の中で、相手や目的に応じて、適切に表現したり、まとめたりしている。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>① 障がいのある方の普段の生活や思いに触れ、誰もが暮らしやすい社会のよさや課題に関心を持ち、自分自身の生活を見つめ直し、他者の考えを受け入れながら学び合おうとする。</p> <p>② 自分と異なる多様な意見や考えを生かしながら、自分の意思で他者と協働して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③ 自分たちのまちの未来をよくするために必要なことを考え、行動に移そうとしている。</p>

5 単元の指導計画 (全41時間)

学習過程 (時間)	活動内容	学習への支援	評価
1 オリエンテーション (5)	<p>○ パラスポーツ「ボッチャ」、「ラダーゲッター」、「カーリンコン」を楽しみ、パラリンピックの意義やユニバーサルデザインの概念について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ルールはどのようにして決めたのだろう。 ・ 補助具を使えば、誰でも楽しく参加することができるね。 ・ ユニバーサルデザインは、スポーツにも取り入れられているんだね。 	<p>○ パリオリンピックを振り返ったり、ダイジェスト動画を視聴したりすることで、パラリンピック競技に関心をもつことができるようにする。</p> <p>○ 実際にパラスポーツを楽しみ、パラリンピック競技の意義を改めて考えさせるようにする。</p>	知①
2 見つめる (5)	<p>○ 田隈には、どのような人が暮らしているのか、全ての人にとって「やさしい」まちなのかを考え、課題と今後の活動の見通しをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤ちゃんから高齢者まで幅広い 	<p>○ 田隈校区の人口推移のグラフを提示したり、テキストブック（「ユニバーサル都市・福岡」P3）に示されている例を見たりして</p>	知② 思①

	<p>世代の人が住んでいるね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国の人も見かけるよ。 ・ 体が不自由な人も生活しているけど、困ったことはないかな。 	<p>考えられるようにする。</p>	
<p>3 調べる (15)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>みんなにとって「やさしいまち、田隈」にするには、どうしたらよいか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者や体が不自由な人の生活について疑似体験やインタビューをしたり、実際に校区を歩いてユニバーサルデザインを見つけたりする。また、本やインターネットを通して、他所の地域や国の取り組みを参考にする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校はスロープやエレベーターがあるけど、他所はどうかな。 ・ 田隈校区は、地面が平な所が多いけど、道が狭い所も多いね。 ・ 生活の中で、感じていることや思いを聞くことができたよ。自分たちにできることを考えたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ インタビュー活動は、保護者や地域の協力をもらせるようにする。 ○ 体験活動は、車椅子体験、視覚障がいの方との交流、ユマニチュードを予定する。実際にその方の立場になって考えることができるようにする。 ○ ユニバーサル都市として先進的に行っている国や地域を紹介し、自分たちの課題解決の参考にできるようにする。 	<p>思② 主①</p>
<p>4 深める (10) ※ 本時 7/10</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べて分かったことや当事者の思いについて共有し、みんなにとって「やさしいまち、田隈」にするために自分たちにできることを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に増えてほしいユニバーサルデザインを公民館に提案したいな。 ・ 学んだことを発信することで、相手の立場になって行動できる人を増やしたいな。 ・ ボッチャ交流をして、体が不自由な方に楽しんでもらいたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 共有した内容の共通項や課題点を明確にできるように、ロイロノートや思考ツールを活用する。 ○ 提案や発表（交流）の場を設定し、目的に応じた方法で発信できるようにする。 	<p>思③ 主②</p>
<p>5 広げる (6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習したことを提案・発表する。 ○ 学習活動を振り返り、今後の活動について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表を聞いてくれた人が、相手意 	<ul style="list-style-type: none"> ○ PDCA 学習シートに蓄積された自分の学習内容を振り返り、やさしいまちづくりに関する考え方の変 	<p>思④ 主③</p>

	識をもってくれたらいいな。 ・ これからも困っている人がいたら自分から声をかけたいな。	容に気付かせるようにする。	
--	--	---------------	--

6 本時の学習指導（3 1/4 1時間）

（1）単元名 やさしいまち、田隈

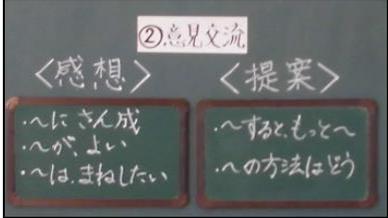
（2）本時の目標

やさしいまちづくりのために、これまでの体験や交流で得た情報、身の回りの事象を関連付けたり、互いの考えを比較したりしながら、自分たちができることについて考えることができる。（思考・判断・表現）

（3）本時の展開

時間	主な学習活動	指導上の留意点及び支援 ★評価規準
5	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習めあてを確認する。	○ 「やさしいまち、田隈」の実現に向けて、必要な行動やはたらきを3つの視点（①すぐにできること②普段から意識すること③取り組むことが難しいこと）から捉えることで、一人一人の課題を明確にできるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 「やさしいまち、田隈」にするために、自分たちができることを考えよう。 </div>
2 5	2 自分たちの考える「やさしいまち、田隈」の姿やその実現に向けてまとめたことを発表し、課題について意見を交流する。	○ 発表の最初に、解決したい課題を伝えるようにすることで、発表後の交流活動で友達や教師から参考意見や助言をもらえるようにする。 ○ 共有ノート（ロイロノート）を活用することで、参考意見や助言、真似したい考え等をすぐにメモし、班の友達に共有できるようにする。
1 0	3 発表後の気付きを基に、やさしいまちづくりのために、自分たちができることを考える。（5） 参観に来られている教師やESDアドバイザーに、課題解決について質疑する。（5）	○ 自分たちの考えが強化・変化したところのカードの色を変えることにより、相手からもらった意見や気付きを明確にし、変容を捉えやすくするようにする。 ○ 教師やESDアドバイザーに、自由に質疑できるような時間を設定することで、今後の活動の見通しや行動化につなぐことができるようにする。 ★ 人の話や意見をしっかり聞き、互いの考えの違いを分かり合いながら活動している。
5	4 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を確認する。	○ 自分の考えが深まったことや変わったこと、これから取り組みたいことを発表し、本時の学習の達成感を次時への活動につなぐことができるようにする。

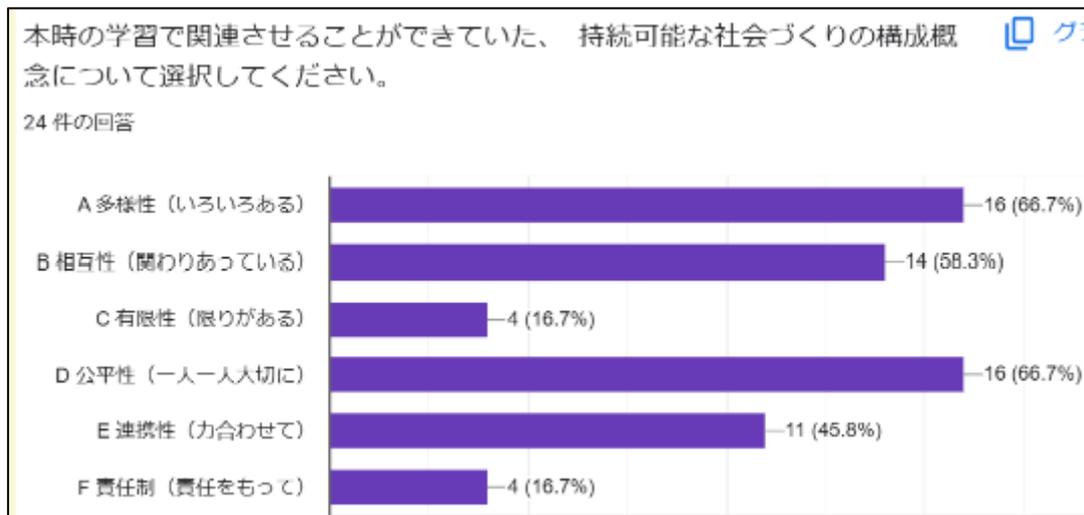
7 本時の実際

学習活動	実際に行った指導及び支援
1	<p>○ 前時までの取り組みを振り返り、めあて「やさしいまち、田隈にするために、自分たちにできることを考えよう」を達成するために、課題について意見交流を行う時間にすることを確認した。</p>  <p>障害「視覚（目）」チーム</p> <p>困っていること 「音響信号や点字ブロックをつけるために市役所にどんなふうにといたらいいか」</p> <p>【発表の冒頭に示した課題】</p> <p>【3つの視点から課題を明確にした】</p>
2	<p>○ Aチーム（障がい、妊婦、外国人）Bチーム（障がい、高齢者、子ども）班で発表（2分）、質疑・意見交流（3分）を行った。時間短縮のため、発表方法は、カフェテリア方式とした。意見は、ロイロノートの共有ノートにまとめ、班で共有できるようにした。</p> <p>○ 意見交流では、感想と提案の話型を示し、相手の意見を価値付けたり、助言したりできるようにした。</p> <p>● 専門外のことや知識のないことには指摘やアドバイスができず、感想で終わってしまう班もみられた。</p>  <p>【発表の様子】</p>  <p>【話型】</p>
3	<p>○ 意見交流でメモした共有ノートを基に、「自分たちにできること」について班会議を行った。意見は、整理しやすいように視点を示した。</p> <p>● 視点の区別ができていない班があったため、全体で視点や話型の確認をする必要があった。</p>  <p>【視点】</p>

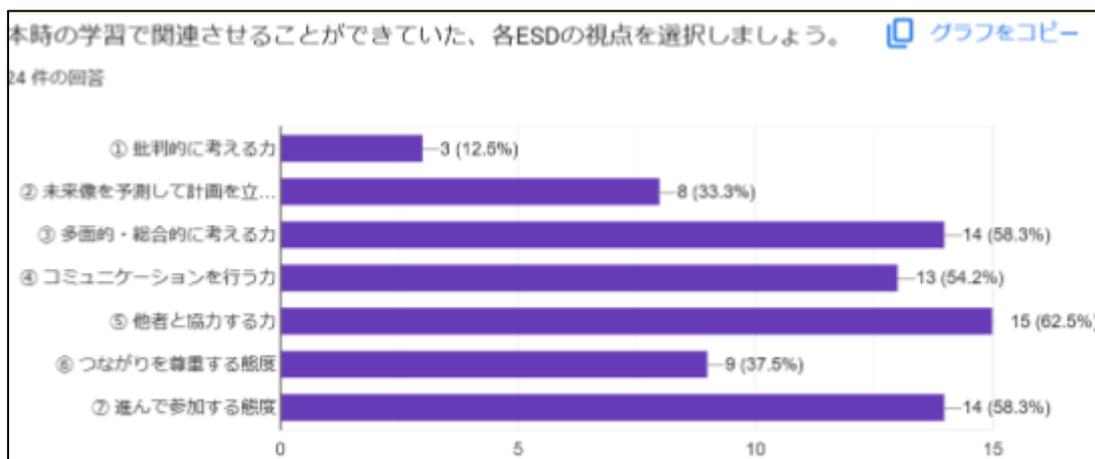
<p>3</p>	<p>【話型】</p>	<p>【班会議の様子】</p>
<p>4</p>	<p>○ 各班に ESD アドバイザーを配置し、学習の助言や伴走を依頼した。</p> <p>○ 班会議で決定したことを報告し、次時での活動への見通しをもたせた。</p>	

8 ESD との関連(参観者より価値付け)

【本学習を通して育てたい ESD の資質・能力】



【本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)】



この結果より、期待していた ESD の資質・能力の育成が感じられる授業実践となったと考えられる。単元後半には、どの班も取組を発信したことで責任性も感じられた。

9 成果と課題

【成果】

- 公平性あるまちにするために、どんな手立てが必要かについて考えたことを発表で相手に伝えることができていた。
- 子どもたちの興味関心に応じて追求できる課題や意見があり、それらを電子黒板に掲示することで互いの意見を比べることができていた。
- 意見交流の場面において、質疑できる環境を整えることで課題がおおまかだった児童も課題が詳しくなり、次の学習につなげることができた。また、直接参考意見等をもらうことによって考えが強化されている場面が見られた。
- ESD アドバイザーから助言をもらうことで、子どもの視点では気付かないことに気付くことができていた場面があり、自分たちは〇〇と考えていたけど、こうした方が周りの人に伝えることができると、考えを深める姿が見られた。
- 分からないところは ICT を活用して調べながら話し合いが進んだので、専門的なことも話せていた。
- 班の会議で使用したメモによって、自分たちの考えの強化と変化が視覚的に分かり、自分たちの課題も見えやすかった。

【課題】

- 意見を比較しながら聞く際、共通点を見つけ出すことができるとさらによかった。
- 班会議のときに、新しい考えと新しい方法の区別をすると、考えの付加・修正、強化がより整理しやすい。
- 意見交流では、課題をより明確にしておくことや事前に提案できる内容を班で協議しておくこと、さらに児童の考えが深められた。
- 子ども同士が考えを出し合って考えが深まったのか、先生たちからの助言を聞いて深まったのかが分かりにくかった。～さんの意見で深まったなどの発表の仕方にするとよかった。
- アドバイザー的な立場で継続的に関わってくださる機会を増やすと、より学びが深められる。
- 行動化を図るために、「誰かのために」などの視点を明確に示すとよかった。

【感想】

- ☆ 子どもたちの成長した姿を見ることができた。情報量が多い中、ロイロノートを駆使して、発表を頑張る姿に感動した。
- ☆ 話し合い活動は、思考ツールを活用しても面白い内容や思考の広がりが見られたかもしれない。
- ☆ 今後の自分の行動に視点を向けて考えることにつなげることができて、めあてにつながっていたと感じた。
- ☆ 新たな意見や取り組みを考える時間として、子どもたちにとってとてもよい経験になったと思う。たとえ新たな意見や方法でなかったとしても、このような学習や交流はとても大事だと感じた。
- ☆ 子ども達同士の発表の際の意見の視点、最後の報告の視点をもう少し理解させておくことは必要だったかもしれない。

【本時の板書】

12/3 やさしい田隈
「やさしいまち田隈」にするために
自分たちができることを考えよう。

③ 研究会

① 発表

② 意見交流

＜感想＞

- へにさん成
- へが、よい
- へは、まねしたい

＜提案＞

- へするものとへ
- への方法はど

変わらない考え

へだ、た、から、
や、ば、り、し、た、い、

新しい考え

へだ、た、け、ど、
へ、し、て、み、よ、う、

だれ、何、ま、ど、の、ま、つ、に、

ア) 外国人にインタビュー理由

どんな手助けが必要か
ヘルプマークがなくてもいい？
外国人が使うお店
困っていることをインタビュー
差別しない。スプ。法書
ワーキング発表新聞

【現在の学年終了時に目指す姿】

自分たちの校区には、様々な立場の方がいることに気づき、体験活動や調査活動を基に、校区のよさについて発信したり、自分たちに何ができるのか考え、仲間と協力して活動を進めたりすることができる。



学校のごみ分別の意味が分かったよ。これからも協力して取り組みたいな。

【総合的な学習の時間「3R大作戦をしよう」】
身の回りのごみについて調べ、地域の課題を捉えさせるとともに、ごみ問題の解決方法や自分たちにできることを考えさせたい。

【社会「ごみのゆくえ」】(社会科見学)
自分たちや地域で出したごみがどのような工程で処理されているのか知り、資源や分別の大切さに気付かせるとともに、ごみについて自分たちの身の回りの課題を捉えさせたい。

自分たちの身の回りの生活には、たくさんの人たちが関わり、支えられているんだな。

【総合的な学習の時間「やさしいまち、田隈」】
○主に養いたい ESD の資質・能力
未来を予測して計画を立てる力
みんなにやさしいまち田隈の姿を想像し、何をすることが大切か考える。
コミュニケーションを行う力
体験活動や友達との交流を通して、他者の考えを受け入れたり、自分の考えを分かりやすく伝えたりすることができる。
進んで参加する態度
ユニバーサルデザインの視点を持ち、校区の実態を把握したり、自分たちにできることを考えたりする。
○主に育てたい ESD の価値観
公平性
すべての人にとって住みよいまちであるために、何が大切なのか考えることができる。

相手が本当に求めていることなのかどうかを見極める必要があるんだな。

【国語「思いやりのデザイン」】
相手の目的に合わせて、どう見えると分かりやすいのかを考えながらデザインするとよいのが書かれている。相手の立場になって物事を考えることで、関わり方を工夫する必要があることに気付かせたい。

【道徳「席が空いているのに」】
本当の思いやりとは、何かをしてあげることばかりではなく、相手の立場に立ってその人の気持ちや考えを大切にしながら支えることだということに気付かせたい。また、相手の気持ちを思いやり、考えを尊重することを大切に、だれに対しても進んで親切にしようとする態度を養いたい。